



鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

聖書の言葉

「人の血を流す者は 人によって自分の血を流される。人は神にかたどって造られたからだ」

聖書(創世記9章6節)

牧師 河合裕志

大洪水のなか救われたノアとその息子達に告げた神の言葉がこれ。「人の血を流す者」とは殺人者のこと。そうした者は「人によって自分の血を流される」。つまり自分の命をもって賠償責任を果たすことになるよ、と。

こんな戒めがある。「命には命、目には目、歯には歯～をもって償わねばならない」(出エジプト記21章23節～25節)。AがBの命を奪った。そうしたらAは自分の命をもって償いとせよ。目であれば目、歯であれば歯～。同程度の害を加えよ。それを超えてはいけませんが同じであれば許される。これは理にかなっているのでは。こうして社会の秩序は守られる。

日本では長く「仇討」(あだうち)が許されていた。殺された本人の恨みを果すため、その関係者が殺害者を見つけ出し討ち取ること。これはあっぱれな行為として多くの人に支持された。忠臣蔵の物語は今なお人気を保ってる。この仇討がしかし明治6年(1873年)に禁止になった。(この年は切支丹禁令の高札が撤去された年でもあった)。そこには欧米の圧力があつたろう。

そうすると殺された者の恨みはどのように晴らすことになるのか。これは国が代って裁くことになった。といっても直ちに死

刑執行に至らない。慎重に事件を調査する。情状酌量の余地はないか。冤罪(えんざい、無実の罪)のおそれがないか。こうして判決が下されることに。日本は死刑制度を維持しているので時に死刑判決の下される場合がある。死刑の是非をめぐっては賛否両論のあるところ。今後とも全国的に考えなければならぬ重要テーマ。

さて創世記では「人は神にかたどって造られたからだ」と言って、人間の命の尊厳を述べている。神は意志を持つ自由な存在。万物の創造者。その神に似せて造られた人間も意志とか自由とか物を造る等の能力を与えられている。どんな人も神の創造の意志のもとにこの世に出生。この人を殺害する者は神の創造意志を踏みにじる仕業で許されない。

また私達はこれに加えて、イエスの十字架における犠牲の血が全ての人のために流されていることをもって、合わせて人の命の尊厳を考えている。父なる神の創造の意志、み子イエスの支払われた計り知れない犠牲を思えば、どんな人の命も奪ってはならない。また自ら自分の命を奮うこともあってはいけぬ。命はどこまでも尊い。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前10時

牧師面談：水曜日午後1時～7時